



発行 福島工業高等専門学校
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30
TEL (0246) 46-0700
FAX (0246) 46-0713
URL <http://www.fukushima-nct.ac.jp>

学校だより



第83号 2007.11
福島工業高等専門学校

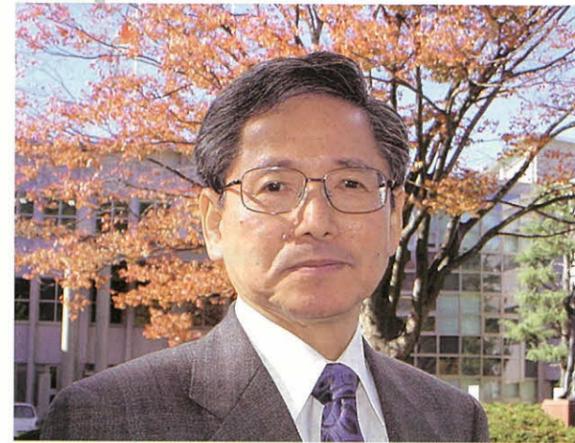
目次

校長随想 あら暑し 暑し何して 暮すべき	奈良 宏一 校長	1
副校長から 「謙虚」と「修行」 「文武両道」を目指して 2年目に思うこと 福島高専の更なる高度化に伴う教育の充実	根岸 嘉和 教務主事 根本 信行 学生主事 山ノ内正司 寮務主事 佐東 信司 専攻科長	2 2 3 3
各科の近況 (本科)		
一般教科の近況	西山 公紀 一般教科長	4
機械工学科の近況	石垣 義尚 機械工学科長	4
電気工学科の近況	春日 健 電気工学科長	4
物質工学科の近況	井上 和人 物質工学科長	5
建設環境工学科の近況	金子 研一 建設環境工学科長	5
コミュニケーション情報学科の近況	森川 治 コミュニケーション情報学科長	5
(専攻科)		
機械・電気システム工学専攻の近況	大槻 正伸 機械・電気システム工学専攻長	6
物質・環境システム工学専攻の近況	青柳 克弘 物質・環境システム工学専攻長	6
ビジネスコミュニケーション学専攻の近況	森川 治 ビジネスコミュニケーション学専攻長	6
J A B E E 認定プログラム J A B E E 認定受けました	青柳 克弘 J A B E E 委員長	7
平成19年度1日体験入学を終えて インターンシップ報告	森川 治 入学者対策専門部会長	8
(本科)		
インターンシップ報告	古川 拓 機械工学科4年	10
インターンシップの感想	吉田 修平 機械工学科4年	10
シャープ(株)最先端プロジェクトチームへ プロの現場に触れて	青田目一樹 電気工学科4年	11
インターンシップの感想	渡辺 秀行 電気工学科4年	11
インターンシップに臨んで	久保田有希 物質工学科4年	12
北海道の大地でインターンシップ	齋藤早弥香 物質工学科4年	12
インターンシップを終えて	我妻 望 建設環境工学科4年	13
文部科学省インターンシップを終えて 「わたしらしさ」とは?	高橋 健太 建設環境工学科4年	13
(専攻科)	飯島美奈帆 コミュニケーション情報学科4年	14
「公設研究機関での研究体験」 インターンシップで学んだこと インターンシップ	川辺 倫子 コミュニケーション情報学科4年	14
山口 泰寿 機械・電気システム工学専攻1年	15	
大林 洵 物質・環境システム工学専攻1年	15	
富塚 直人 ビジネスコミュニケーション学専攻1年	16	
鳥居 孝栄 卓球部指導教員	17	
学生課学生支援係	18	
鳥居 孝栄 国際交流委員長	22	
小野 愛実 コミュニケーション情報学科3年	23	
渡邊真菜花 コミュニケーション情報学科3年	23	
大槻 正伸 情報処理教育センター長	26	
天野 仁司 ロボット技術研究会 指導教員	27	
島村 浩 コミュニケーション情報学科講師	27	
総務課総務係	28	
学生課入試係	28	
天野 仁司 広報委員長	28	

(表紙撮影：物質工学科 井上教員)

校長随想

校長 奈良 宏一 あら暑し 暑し何して 暮すべき (一茶)



福島高専の正面玄関前には大きな樺があります。45年前に山を切り開いて高専の建物を建設するとき、その雄姿からシンボルとして残した唯一の木であると聞いています。その樺の葉も9月の猛烈な残暑が終わると一気に紅葉しました。暑い夏から急に晩秋の気温に至ったためでしょうか。今年は、国内の最高気温記録が更新されるなど、例年になく暑い夏でした。いわき市に来て初めての夏を経験しましたが、まわりの皆様から「今年の暑さは異常である、地球温暖化が進んでいるのではないか?」と何度も質問を受けました。この暑さが、天文学的に長い年月に地球がうける気温変動の範囲内なのか、明らかに地球温暖化が進行しているためなのかの判断は難しいようですが、温室効果ガスが気候変動に少なからず影響を与えていることは確かなようです。先頃、2007年のノーベル平和賞が発表され、受賞者が気候変動に関する政府間パネル(IPCC)と地球温暖化を警告する「不都合な真実」を著した米国の元副大統領アル・ゴア氏であったことも地球温暖化の進行に不安を覚える要因になっているようです。

炭酸ガス(CO₂)を排出する化石燃料の価格は、中国など発展途上国の需要増のため高騰を続けていますが、それにもかかわらず、原油や天然ガスを初めとする化石燃料の使用量は日本でも増加を続けています。そのため、今のところ、日本では、CO₂排出量を2012年までに1990年のレベルから6%削減することを決めた京都議定書の達成は、経

済メカニズムを効果的に利用するなどしない限り困難と予想されています。文明が発達した現在、人類はエネルギーのない生活には堪えられなくなっていますが、CO₂排出を削減するためには、使用するエネルギーを減らす(省エネ)かまたはCO₂を発生しないエネルギー源を使うしかありません。CO₂を発生しないエネルギー源としては、すぐに、太陽光や風力のような自然エネルギーと原子力が思い浮かびます。自然エネルギーの利用も徐々に増加してきてはいますが、エネルギー密度が薄いため大量のエネルギーを得ることは困難で、国内で水力を除く自然エネルギーが全エネルギー消費に占める割合の目標を経済産業省では2010年でわずか3%としています。今年も、原子力発電についても考える機会を与えられました。7月に発生した中越沖地震では、柏崎・刈羽原子力発電所の7基の発電機がすべてダメージを受けて停止し、首都圏で夏季の電力需要の抑制を余儀なくされたからです。直下型地震でも致命的な事故にまで至らなかった日本の優れた技術が賞賛される一方で、国内での原子力立地の安全確認の重要性を再認識させられました。原子力発電による電力は国内使用電力量の40%近くであり、放射性廃棄物の処理など未解決な問題を残しつつも日本の基幹エネルギーとしての原子力の地位は揺らぐことはなさそうです。

近隣に原子力発電所を持つ福島高専は、本年度、原子力教授人材充実予算に採択されました。将来の地球環境を考え、エネルギー分野で活躍可能な人材を育成するための布石として、3名の教員が原子力教育の勉強をしています。さらに、福島高専では、環境に関する教育にも力を入れています。環境工学、資源工学、産業廃棄物などの講義を開講している他に、地域の自治体や企業の協力の下に地域環境を体験する学習プログラムがあります。地域との連携を地域環境テクノセンターにコーディネータを配置して組織的に取り組んでいます。また、同時にCO₂の排出が少ない太陽光発電や風力発電などの教育・研究も進めています。今後も、さらに、本校の環境・エネルギー教育を充実していくつもりです。

副校長から

「謙虚」と「修行」

教務主事

根岸 嘉和



年度当初、着任直後の始業式講話で学生に「勉強においても謙虚に自己を振り返り、指導者を信頼し、地道に努力すること」を要請しました。難局を小手先でかわそうとしたり、不振を周りのせいにしては、それらを打開し前進することはできません。昨今流行の「評価」も、する側にも、される側にもプラスに機能させなくてはなりません。

このことを考える時、ある卒業生のことを思い出します。30年前の新任当時、大御所の先生の手伝いで出題した演習問題の中に、その学生を含め解答がないものがありました。後日、彼と周囲の学生にどういふことか聞いたところ「初めて見た問題」とのこと。当然授業で習っている内容なのですが、問われ方が変わると、初学者には全く異質の問題に見えることもあるかと、一言、問題の捉え方を説明すると、彼はたちどころに理解し、解法を見出したことが、その表情でわかりました。そのとき彼の口から出た「修行が足んねえな」という独り言が忘れられません。

彼は常に淡々と不断の努力を続け（先日再会しましたが、雰囲気はそのままでした）、大学に編入学し、別の大学の大学院で修士課程修了後、実務についた企業から派遣された米国の著名な大学で博士（Ph. D.）の学位を取得しました。私もその学位論文を読ませていただきましたが、充実ぶりに感嘆しました。

何よりも「謙虚」に自分を見つめ、努力することが大事であり、「自」への慢心や「他」への見くびりは禁物です。また、他力本願の見せ掛けでは本物にはなれません。

学生諸君、共に、自分を磨くための「修行」に徹しましょう、本物になるために。

「文武両道」を目指して

学生主事

根本 信行



「文武両道」は、本校の教育理念の根幹に位置するものです。ここで、「文」とは学業であり、「武」は課外活動と理解されています。この「文武両道」の精神は、多くの方々の賛同を得て、この精神に基づく学生指導に関しては、全国高専の中で高い評価を得てきました。特に、例年全国高専大会で活躍している陸上競技部・卓球部・水泳部等を始めとする体育系クラブ、29年県大会連続金賞受賞の吹奏楽部に代表される文化系クラブや昨年全国ベスト4に入賞したロボット技術研究会を含む研究系クラブ等それぞれの活躍は、他高専の目標ともなっています。今年度はさらに学生会の意欲的な活動が始まりました。昨年の学生会自体が主催した高専祭の成功が、学生達の自信を深めたものと思われまます。全国や東北地区の高専との交流会を夏休みに実施した本校学生会は、本年11月4日の高専祭を成功させました。

さて本校が取り組んできました手厚い学生指導方針が、文部科学省からも高い評価を得ることができ、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択されました。採択された本校のプログラム「マルチメディア活用型ピアサポートシステム」は、学生主体として運用する教育システムで、サーバーのパソコンを介して画像・映像データを含む種々のデータをやり取りできます。公欠・病欠の仲間のために講義・実験・実習の様子を記録・配信することもできることとなります。来年度までに準備する最新の機器を学生が積極的に利用することによるより高い教育効果をご期待下さい。

副校長から

2年目に思うこと

寮務主事

山ノ内 正司



寮務主事2年目となりました。本年度もよろしくお願いいたします。昨年1年間、寮の運営に携わってみて、改善しなければならぬと感じたことをいくつか述べさせていただきます。

まず寮生の「学習意欲の向上」です。まだまだ学習習慣が身に付いていない寮生が見受けられます。寮食堂での勉強会を更に充実させると共に、寮が変われば学校が変わる、との気概と自覚を持たせ、学習意欲の向上に努めたいと思います。

2点目は「寮生会が定めた1年生に対する指導内容の改善」です。昨年度、指導寮生の不祥事により、寮生会が独自に定めたルールの中に理不尽なものがあることが明らかになり、見直しに向けて寮総務との話し合いや意識調査を行うなど、検討してきました。幸い、寮長や指導寮生も理解してくれ、1年生が守るべきルールも少しずつ良い方向に向かっていると感じています。

3点目は、「上級生の自立の促進」です。上級生の中で、寮に対して全く貢献しない人、貢献しないばかりか、生活をコントロールできず寮務委員会の指導を受けている人などは、寮を出て自立した生活に切り替えて欲しいと思っています。新1年生を迎え入れるためにはやむを得ないことで、目下、「入寮者選考基準」の見直し作業を進めているところです。

最後に、寮生会と寮務委員会が協力して寮運営にあたり、活気あふれる学寮を築き上げていきたいと考えています。

福島高専の更なる
高度化に伴う教育の充実

専攻科長

佐東 信司



本学の専攻科教育は4年目を迎え、教育の改革に伴う「個性化・活性化・教育の更なる高度化」を念願に置いて、地域社会に密着した教育を重視しています。その一貫として専攻科修了を目前にした平成19年1月31日に、2年間の特別研究成果を地域社会に公表するため、いわき市生涯学習プラザで「特別研究成果公開発表会」を実施しました。公的機関・企業・市民など多くの来場者で、盛況に行われました。来場者から、研究課題や研究成果に対し、専攻科の充実した教育と高度化を認めて頂くことができました。今年度は平成20年1月30日（水）にいわき駅前に新築されたLATOVで開催しますのでご来場下さい。

専攻科生の研究レベルを向上させる方策として、2年間の在籍中に学会等の公共機関で発表することを義務としています。今春の修了生23名（第2期生）は全員が発表し、複数回発表も含め31件となり、大学と比較しても十分な研究成果を得ています。

第2期生の進路は東北大学大学院、長岡技術科学大学大学院へ推薦入学で4名が進学しました。また、就職では公務員が4名、企業等へは15名となっています。今後は30%程度の学生を大学院へ進学させたいと考えていましたが、来春修了予定者は40%を越える勢いで、更なる高度な勉強意欲によるものと思っています。

高等教育機関の技術系を対象とした日本技術者認定機構（J A B E E）の審査に昨年度合格し、第2期生23名に認定証を授与することができました。この認定で専攻科修了生の能力が高く評価され、世界水準の教育レベルが保証され、高専教育の高度化が図られました。

各科の近況(本科)

一般教科長 西山公紀



一般教科では、数学科の亀井宣男先生と国語科の大森房子先生がこの3月でご退職となりました。亀井先生は昭和44年より38年間勤務され、本校の発展のためにご尽力されました。また、大森先生は平成7年より勤務され、特に国際交流委員長として留学生支援に熱心に取り組まれました。4月に新任教員として数学科に鈴木正樹先生、国語科に高

橋圭介先生が着任されました。

一般教科の各科目は基礎学力の充実を目指し、特に、数学と物理で基礎学力標準試験を全3年生対象に実施しております。英語は、3年生以上に学年毎にTOEIC-IPテストを実施しており、低学年には英検準2級対策の指導を行っております。

11月21日・22日の学年行事日に、1・2年生で見学旅行が実施されます。1年生はつくば市の高エネルギー加速器研究機構及び宇宙航空研究開発機構の研究施設見学、2年生は学科ごとに、各専門に関連する浜通り地区の工場及び東北電力の発電施設見学が計画されています。保護者の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

機械工学科長 石垣義尚



今年度は4月に1年生42名、マレーシアから3年生への留学生1名が入学しました。また、教員のほうも天野耀鴻教授、平尾篤利助教のお二人の先生を迎えてスタートしました。

今年度の就職求人状況は昨年度よりもすく、現在で機械工学科5年生(来春卒業予定者34名)に対する求人数は約730社です。すでに就職希望

者17名が内定し、進学希望者は国立大学3年編入学で13名、福島高専専攻科に4名合格して全員が進路を確定しています。

今年度の特に大きな出来事としては、築後40数年が経った機械・物質工学科棟の耐震工事を含む全面改修工事が8月から始まりました。7月末の忙しい時期に教員室・実験室の引越の準備や移動で学生にも迷惑をかけました。教員は現在図書館学生ホールと大ゼミ室を仕切って同居仮住まいしています。実験を伴う授業は前期に集中して行い、現在はこの狭い空間で卒業研究やセミナーを行っています。学生も教員も完成予定の来年の2月頃まで辛抱していただくことになります。

電気工学科長 春日健



今年度も、昨年度と同じ教職員で学生への教育・研究の指導に当たっております。

来春卒業予定の5年生は全員、進路が内定しております。内訳は、20名が就職、18名が大学等への進学です。このうち4名が本校専攻科へ進学し、卒業研究との関係で掘り下げた研究ができるものと期待されます。

4年生はこの夏休み、企業でのインターンシッ

プを経験しました。11月に実施される工場見学とあわせて、目の前に迫った進路決定に大きな影響を与えることと思います。

11月には3年生以上を対象に、学科統一テストを実施します。専門基礎力の理解度確認が主な目的ですが、特に3年生は現在学習している内容と関連することでもあり頑張りを期待します。

最後に、学科では「デジタル技術検定」や「工業英語検定」などの資格取得を奨励しています。合格者は特別学修として単位認定されます。

今後とも、生きる力を身につけた質の高い技術者の育成を目指すとともに、学生が中心の活気ある学科にしていきたいと考えております。

各科の近況(本科)

物質工学科長 井上和人



物質工学科1年生には、42名が入学し物質を分子レベルで自在に操る技術者を目指して担任の石原万里先生の指導を戴き基礎科目の学習に取り組んでいます。本年度はより実践的で充実した教育を展開するために本年度から日本化成元工場長の中西恒雄先生(化学プロセス工学)といわき明星大学の

大表良一先生(計測制御工学)を非常勤講師にお

迎えしております。物質工学科は、教職員全員が活発な議論を通して教育・研究に力をあわせてあたるべく、学科の知恵を結集して真面目な学習を好み、実力のある学生を育てる継続的な努力をしております。学生諸君には校訓(真面目な学習/規律ある生活態度/洗練された言動)を基に福島高専の教育目標を理解し、大学の学部卒業生を凌ぐ実力をつけてもらいたい。高専は高大一環教育を行う理想的な学校です。

本年度は、物質工学科棟と機械工学科棟の全面改修工事が7月から来年2月までの予定で行われています。後期の学生実験は、一般化学実験室と理科実験室をお借りしての実施となります。

建設環境工学科長 金子研一

今年度の学科長を仰せつかりました金子です。よろしくお願ひします。4月より高荒先生を迎えて、新メンバーでスタートしました。女子学生にとって良い相談相手になっていただけたと思います。男子学生141名、女子学生54名に対して先生も男性8名、女性2名ということで、良い比率ではないでしょうか。

担任は1年生が秋山先生、また3年生は菊地先生、4年生は原田先生に代わられました。原田先生が教授に昇格されたほか、制度が変わり緑川先生、森田先生、齊藤先生が准教授という肩書きになりました。

後半戦が始まりましたが、4年生は夏休みにインターンシップを体験し、将来の進路を決めるうえで大変参考になったようです。5年生はほぼ希望通りの就職、進学先に決まったようです。後期早々、4年生を6号バイパス御台境橋の鋼橋架設を見学させました。工事のダイナミックさを堪能してくれたことと思います。就職先に施工会社を希望する人材が増えてくれることを望んでいます。



コミュニケーション情報学科長

森川 治



平成6年4月に本学科が設立され、今年で14年目を迎えます。卒業生は340数名に達し、企業等から高い評価を頂いております。これも皆様様の御陰と感謝しております。

平成19年3月に鈴木敬了先生が転出、9月に田代均先生が勇退されました。後任として4月に松本行真先生、10月には脇田淳一先生をお迎えしました。今後のご活躍が期待さ

れます。また、布施雅彦先生は、教員交流配置換えで茨城高専に4月より勤務されております。

5年生38名の進路希望は以下の通りです。(9月1日現在)

- (1) 民間企業 19名 (2) 公務員 3名
- (3) 進学 14名 (4) その他 2名

今年は進学希望者の少ないのが特徴です。今年の就職戦線は好調に推移し、民間希望者のうち16名が内定を頂いており、公務員等希望者も含めて全員決定間近な状況です。また、進学希望者のうち4名は国立大学(専攻科を含む)に合格しています。学生の希望がかなえられるように教員一同一生懸命指導に当たっている所です。

各科の近況(専攻科)

機械・電気システム工学専攻長

大槻正伸



今年度の機械・電気システム工学専攻ですが、1年生12名は、4月に入学後研究室配属も決まり2年間の研究活動を開始しました。夏季休業中には全員約1ヶ月間のインターンシップに行き、10月3日に全専攻合同で報告会(ポスター発表)を行い、続いて特別研究の第1回発表会(口頭発表)を10月11日、12日の2回で行いました。

物質・環境システム工学専攻長

青柳克弘



高専の進むべき道として専攻科の充実が叫ばれ、定員以上の学生を合格させている高専が多い中、本専攻には定員丁度の1年生8名、2年生8名の総勢16名が在籍しています。向上心に燃えた多くの本科卒業生の入学を期待しております。

2年生は9月末日現在、就職希望者3名全員の内定を頂いています。また、大学院進学希望者は

ビジネスコミュニケーション学専攻長

森川治



平成19年9月に田代均先生が勇退され、後任として脇田淳一先生をお迎えしました。先生は新日鐵で生産管理等の実務・研究をされ、その後大学で教えられていました。専攻科では生産管理論、製品開発論及び特別研究等を中心に担当されます。先生には企業での貴重な経験を発揮され、専攻科の充実にご尽力頂けるものと期待しております。

2年生8名は、4~7月までは就職・進学試験、以降9月後半まで学位申請書類の整備、特別研究第3回発表会とかなり忙しく活動しました。進路状況ですが、大学院進学3名(東北大、秋田大、茨城大)、就職は、常磐共同火力、アルプス電気、クレハエンジニアリング、東京電力で内定を頂いております。学位申請書類は全員提出し、9月25日には、第3回特別研究発表会を実施しました。今後は、12月16日の東京での学位「取得」の小論文試験、1月の特別研究最終発表会というように大きな仕事が続いていきますが、全員充実した日々を送りながら頑張っているところです。

5名おり、3名が合格し、他の2名はこれから受験の予定です。良い結果を期待しております。9月末には、特別研究の第3回中間発表会とその成果を盛り込んだ学修レポートの学位授与機構への提出が無事済みしました。今年度も全員合格し、学位を取得してくれるものと信じております。

1年生は、夏休み中、約1ヶ月にわたるインターンシップを実施し、10月3日には報告会を行いました。また、10月10日、11日には特別研究の第1回中間発表会も行いました。

以上のように、学生はさらに高度な能力を身に付けるために日々充実した専攻科生活を送っております。より一層のご支援をお願いいたします。

この春には1年生は定員の2倍の8名を迎え、本専攻総数12名となりました。少数ではありますが、たいへん行動的な学生揃いであり、活気に満ちております。

1年生は、夏期休業中に長期インターンシップを終え、企業での貴重な経験が今後の進路決定及び特別研究を進める上での貴重な財産になるものと考えております。また、受入企業の方からは、たいへん高い評価を頂いております。2年生は、学位授与機構への学修レポート提出を終えております。進路は、大学院進学希望1名、就職希望3名。近々全員の進路が決定するものと考えております。

今後とも専攻科の教育・研究にご理解の程よろしくお願い致します。

JABEE認定プログラム



JABEE 認定されました

JABEE委員長 青柳克弘

皆様もご存知のように本校は、昨年度JABEE審査を受けました。実地審査の結果より概ね良い評価であることは予想しておりましたが、昨年度の段階で正式な結果は届いておらず、これまでご報告しておりませんでした。

新聞に掲載されましたのでご存知の方々も多いと思いますが、今年の5月に、本校の教育プログラム「産業技術システム工学」が国際的に通用する人間性豊かな実践的技術者を育成するための教育に適合しているとJABEEより正式に認定されました。また、その評価も非常に高いものでありました。これは、ひとえに教職員、学生、保護者の皆様を含め本校一丸となった取り組みの成果であり、感謝申し上げます。第1回JABEEプログラム修了証書授与式も、多くの平成18年度専攻科修了生が出席して、7月に挙行されました。

JABEEによって認定されたプログラムを修了すると、専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが国際社会において保証されます。このことが第一ですが、さらに、技術者の唯

一の国家資格である「技術士」になるための第1次試験を免除されて、「修習技術者」の資格が得られ、申請により「技術士補」の免許を得ることができます。その後最短で技術士の指導の下に4年間の実務経験を積み、技術士になるための第2次試験を受験できます。

学生は、このようなプログラムに基づいて本校で日々教育を受けているわけで、誇りを持って勉強してもらいたいと思います。今回は、工学系4学科、2専攻による受審でしたが、ビジネス系のコミュニケーション情報学科およびビジネスコミュニケーション学専攻についても、準備が整い次第、教育プログラムを設定し、「経営工学」でJABEE認定審査を受ける予定です。

JABEEに認定されて一安心という気持ちはありますが、これで終わりということではありません。最も重要なことは、本校のプログラムを継続的に点検し改善してより良いものにしていくということです。この努力を怠ってはいけません。皆様の更なるご支援をお願いいたします。



一日体験入学

平成19年度

1日体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 森川 治



今年で13回目を迎えた1日体験入学は、昨年とほぼ同時期、8月7日(火)、8日(水)の1日半で実施しました。例年通り、午前中はいわき地区を、初日の午後はいわき地区以外を対象としました。機械工学科棟・物質工学科棟の改修工事のため参加者にはご迷惑をかけました。二日とも例年にならぬ猛暑の中の実施となりましたが、大きな問題もなく、下記のような例年通りの日程で、計画通り実施することができました。

午前の部	日 程	午後の部
8:00～8:20	受 付	12:30～12:50
8:20～8:50	開 校 式	12:50～13:20
9:00～11:55	デモ実験見学	13:30～16:25
12:00～12:10	閉 校 式	16:30～16:40

ここ数年の参加者数は、14年度673名、15年度700名、16年度611名、17年度838名そして18年度781名と増減を繰り返し、今年度は、687名でした。16年度以前のレベルに戻ってしまいました。少子化の中、今後の広報活動の重要性を痛感しております。

参加者数	生徒	教諭	保護者	合計
いわき地区	354	27	69	450
いわき地区以外	137	4	96	237
合計	491	31	165	687

今年の各学科のデモ実験のテーマと内容を紹介いたします。

<機械工学科>

“モノづくりの夢を「カタチ」にしよう!”というテーマで、①学科紹介ビデオ ②ロボットに触れてみよう ③ライトレーサーで遊ぼう のデモ実験が行われました。



<電気工学科>

“ふれてみよう電子情報の世界”というテーマで、①センサ別?アイデア回路あれこれ～モノづくりde人づくり～ ②HTS+LN₂+PM=?答えは@電気工学科ころウキウキ、?で浮き浮き のデモ実験が行われました。



<物質工学科>

“化学への招待-物質工学科の実験を観て、そして体験してみよう-”というテーマで、①葉緑体色素を取り出して性質をしらべてみよう ②電気を使わないでメッキをしよう ③液体の性質(酸性、



一日体験入学

アルカリ性)をしらべよう のデモ実験が行われました。

<建設環境工学科>

“環境にやさしい建設技術”というテーマで、①山を越えて進んで行こう! ②川を越えて進んで行こう のデモ実験が行われました。



<コミュニケーション情報学科>

“Reach Your Dreams!”というテーマで、①学科紹介ビデオ ②英語劇 ③経営情報てなに が行われました。



<交流コーナー>

“本校からのメッセージ”ということで、①学校紹介コーナー ②入試相談コーナー ③休憩コーナーを準備し、休憩時間などに自由に見学したり相談できるようにしました。また、昨年同様知能ロボットの実演コーナーも設け、楽しんでもらいました。

実施後、アンケート(回答数 中学生411、引率者134)を採りました。非常に好評でした。しかし、工事中でもあり、案内にもっと配慮すべきであるというご意見がありました。主な調査結果を挙げます。

1. 見学時間について

見学時間	生徒	引率者	全体
短い	12.6%	6.6%	10%
ちょうど良い	72.6%	78.7%	73%
長い	14.0%	12.5%	13%
無回答	0.8%	2.2%	4%

暑さのためか、「長い」と感じた参加者が、例年より多いようです。しかし、大部分は、適度な長さと感じたようです。

2. どの学科が良かったですか? (複数回答)

良かった学科	生徒	引率者	全体
機械工学科	41.9%	37.5%	40.8%
電気工学科	42.6%	47.0%	43.7%
物質工学科	54.0%	50.7%	53.2%
建設環境工学科	38.4%	30.1%	36.3%
コミ情報学科	53.1%	63.2%	55.6%
無回答	0%	0%	0%

全般的に極めて好評だったようです。

3. 志望校を選ぶ場合の条件は何ですか (複数回答)

条 件	生徒	引率者	全体
専門的教育	57.9%	77.6%	61.7%
就職率の高さ	46.7%	76.5%	52.5%
学校の雰囲気	44.5%	49.0%	45.4%
進学の実績	41.6%	57.1%	44.6%
部活・クラブ活動	24.3%	10.2%	21.6%
通学が便利か	15.8%	15.3%	15.7%
学費	12.4%	26.5%	15.1%
生活指導	6.8%	6.1%	6.7%
寮の有無	2.3%	12.2%	4.5%

本年度初めて取り入れた質問項目です。中学生と引率者が重要視する条件に殆ど差はないと言えます。ただし、進学の実績、部活・クラブ活動および学費については差があるようです。

準備から実施まで多くの方々にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

インターンシップ報告

機械工学科

インターンシップ報告

機械工学科 4年 古川 拓

私は8月20日から2週間、東京都のダイキン工業株式会社東日本サービス部(以下ダイキンと呼ぶ)で、インターンシップを行ってきました。ダイキンは、業務用エアコンで国内第1位、家庭用エアコンで国内第2位のシェアを持つ大企業です。

私の実習テーマは、「空調機メンテナンス実習」ということでしたので、研修センターのような場所で、エアコンなどの修理体験を予想していましたが、実際の実習内容は、空調機修理の出張サービスに同行し修理の補佐をするということで、依頼先に訪問して活動しました。また、お客様の依頼やクレームに対応するコールセンターや、修理先で必要な部品を各サービスステーションに配送するパーツセンターなども見学しました。

私はこの二週間で多くの貴重な体験をさせていただきました。他県からのインターンシップ生と友達になりましたし、一緒に現場をまわってくださったサービスエンジニアの方々にも、いろいろとためになるお話を聞かせていただきました。中でも最も自分のためになったのは、実際の職場の雰囲気や、企業の一員として味わうことができたことだと思います。今後、自分が社会に出て仕事をしていく上で、今回のインターンシップで得たことが大きな財産になると感じました。

最後に、真夏の忙しい時期にインターンシップを受け入れてくれたダイキン工業の皆様に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



インターンシップの感想

機械工学科 4年 吉田修平

私は株式会社東光舎岩手工場で5日間の実習を行いました。東光舎では理美容用の鋏(はさみ)を生産しています。理美容用鋏には高い精度が要求されるので、機械による変形を防ぐために手仕上げで作られています。

始めに鋏の特徴や材質について学習しました。そこでは高専で学んだ材料学の知識が大いに役立ち、授業の大切さが改めて分かりました。2日目には手作業で鋏の研磨をしました。この作業は鋏の製作において最も重要な工程であり、製品の仕上りに大きく影響します。手作業には高い技術と経験と集中力を要しますが、丁寧に指導して頂いたおかげで大きな失敗もなく出来ました。3日目にはNC工作機械を使って鋏の加工をしました。この作業では機械の停止時間の短縮が要求されます。4台の機械がそれぞれ1~2分で作業を終えるので、これを止めずに1日中動かし続けるのはとてもハードな仕事でした。最終日には自分の鋏を作らせて頂きました。4日間で学んだことを思い出しつつ加工し、初めて行う作業については丁寧に教えて頂き、ときどき手伝って頂いて完成に到りました。完成した鋏は期待を大きく上回る切れ味に仕上がり、モノづくりの喜びというものを改めて実感することができました。

この実習を通して、一心不乱に働く皆さんの姿を見、自分もその中で作業することができ、仕事とはどういうものか、社会に出るとはどういうことかが分かったように思います。これからは、この経験を勉学などに活かしていきたいと思っています。



インターンシップ報告

電気工学科

シャープ(株) 最先端プロジェクトチームへ

電気工学科 4年 青天目 一樹

私のインターンシップ先が決まったのは7月末。クラス最後に、やっとシャープ(株)奈良県葛城工場で受け入れてもらえることになりました。第二希望ながら、オプトAD部門に決まり喜んだのも束の間、さらなる試練が…。事前学習。全く学習していない内容満載で、インターンシップが始まるまで不安を抱えながら少しずつ勉強していました。

8月22日、ついにインターンシップが開始。私が所属したのは、オプトアナログデバイス 新規事業推進プロジェクトチームという総勢6人でシャープの新しいデバイス製品の開発を行っている部署でした。他の部署から優秀な技術者を集めて作られたプロジェクトチームは本当の精鋭部隊でした。初日、右も左も分からないものの、チーフの詳しい説明で、何かスゴイ事をしているらしいということだけは理解できました。まだ開発段階、もしくは発売前の製品の初期測定や信頼性測定、全く新しい製品の金型を作り実際に試作をするなど、6人では人手不足と思えるようなハードな仕事が満載でした。猫の手も借りたいということわざはこの事かと納得。

私が実際担当させて頂いた仕事は、MOSTデバイスの信頼性測定をし、その測定データをまとめ、グラフ化し評価をするものでした。その他にも、本場で発表する全社幹部向けのデモ機に載せるHDMI対応光配線モジュール(Tx)の基板試作評価や、コンマ数ミリのICやデバイスを電子顕微鏡で見ながら基板に載せて張るダイボンディング、そのICやデバイスと基板とを電氣的に金ワイヤでつなぐワイヤボンディングなど他にも様々な仕事を体験できました。

今回のインターンシップを通じて、製品を一から作ることの大変さを体験するとともに、技術者の「もっとよいものを！」という強い思いを身にしみて実感しました。これからの高専生活、その後に待っている社会生活にこの体験を生かし、一流の技術者を目指して努力していきたいと思っています。



プロの現場に触れて

電気工学科 4年 渡辺 秀行

私のインターンシップ先は、NECネットエスアイ・エンジニアリング株式会社というNECのグループ会社の一つでした。本社のある東京に向かう特急の中、私の中では期待と不安が入り混じっていました。最先端の現場で使われている技術、あるいは会社という組織での仕事内容を知ることが出来るという期待が膨らむ一方、自分の知識でついていけるのか、会社という環境に適應できるのかという不安がありました。しかし、これらの期待や不安はいい意味で裏切られていきました。

私が参加したのはNWサーバSI部でのサーバ構築の実習でした。内容はOSのインストール・環境設定・動作検証などで、業務内容としては「構築」に分類される部分でした。高専の授業では経験したことのない「サーバ構築」という仕事に取り組み、それまで知らなかった様々なことを沢山知ることが出来ました。実際の仕事の流れ、サーバ構築での設定値の意味、使われている技術やソフトウェアなど、期待していた以上の内容を教えていただきました。不安に思っていた事柄については指導員の皆さんが丁寧に解説して下さいました。とても親切にいただいたことで、すべてが取り越し苦労だったと分かったのです。

今回は、実習以外でも色々得るものがありました。一緒に参加した他の高専生と話をし情報交換できたこと、指導員の方々から仕事での体験談等を聞くことができたことなど、机の上の勉強だけでは得られない貴重な体験となりました。

五日間という非常に短い実習でしたが、本当に有意義な日々でした。インターンシップでの体験を今後の勉強や生活に生かすとともに、進路を考える上で参考にしていきたいと考えています。



インターンシップ報告

物質工学科

インターンシップの感想

物質工学科 4年 久保田 有希

小川香料(株)つくば事業所で7日間の研修を行いました。

前半は生産部にて香料の生産を行い、後半は品質管理部にて製品や原料の品質管理の仕事をさせていただきました。

生産部においては、実際に商品として売られている香料を配合し、それをドラム缶に充填する作業をさせていただきました。

品質管理部においては、他の会社では体験することができない「匂いの記憶訓練」「匂いの感度チェック」「匂いの識別訓練(コンタミテスト)」など香料会社でしか行っていない官能検査を体験することができ香料に対する意識が変わりました。

また、今実際に実験で使っているGCや滴定、微生物の検査などがどのような形で用いられているのか身をもって体験することができました。

私はこの会社に行く前はどのような会社に勤めたいなどということあまり深く考えていませんでしたが、品質管理の検査を見て人間と深く関わる仕事(医療・食品など)に就きたいと考えるようになりました。

インターンシップ初日は実習生が1人ということもありとても緊張していましたが、2日目以降は職場の雰囲気にも慣れ、皆さんの温かい指導の下たくさんのお話を学べてよかったと思います。この体験をこれからの就職活動に生かして行きたいです。



インターンシップに臨んで

物質工学科 4年 齋藤 早弥香

私は、8月27日から31日までの五日間、好間工業団地内にある江東微生物研究所環境分析センターにて職場体験をさせていただきました。

私が江東微生物研究所でのインターンシップを希望した理由は、分析業務という仕事がどのような形で行われているのかを学びたかったためでしたが、その目的以外にも、更に全く違う分野で重要な体験を得ることができました。インターンシップ前までは、分析業務というと、私たちが普段行う実験のように一つ一つの手で行われているようなイメージがありました。しかし、実際は一日に何十何百という数の検体が運び込まれ、そのほとんどが機械で処理されて流れ作業のように分析が行われていました。その他にも、自分が想像していたことと現実に行われていることにギャップを感じることもたびたびあり、実際の職場と想像していたことはまるで違うのだ、ということを実感しました。

実際に社会人として働く方々を見て、自分の知識の浅さや視野の狭さを改めて実感し、同時に社会人になることで背負わなければならない責任の重さを感じました。休憩時間などに社員の方々に就職や仕事についてのお話を伺ったり、進路についてのアドバイスを頂いたりする機会を得られたのはとても幸運なことだったと思います。インターンシップに行ったことで得られたこれらの経験を、これからの学校生活や進路選択などに生かして行きたいと思います。



インターンシップ報告

建設環境工学科

北海道の大地でインターンシップ

建設環境工学科4年 我妻 望

ホテルのロビーを出て、向かいのバス停へ。音楽を聴きながら塩谷線のバスが来るのを待つ。バスに乗り、約10分揺られ、長橋中学校前の停留所で降りる。2、3分歩くと事務所へ着き、8時半から仕事が始まる。

私は北海道開発局小樽道路事務所にて2週間実習させていただきました。北海道までの移動はもちろん自分一人。2週間の実習期間もホテルに一人で宿泊しました。一人で乗る飛行機、初めて訪れる場所、何もかもが初めてで最初は不安でいっぱいでした。

しかし、実習が始まると事務所の方がとても親切で温かい方ばかりでその不安はすぐに吹き飛んでしまいました。実習は主に道路パトロールや現場視察、仕事内容の説明でした。もともと興味があった国家公務員という職業がどのような仕事をしているのかを知る良いチャンスになりました。現場の視察では貴重な体験をたくさんさせていただきました。道路パトロールとは道路に異常がないかを見て回るものなのですが、積丹半島の海がとても綺麗で見とれてしまい、パトロールどころではなかった気がします。。

実習中、進路についてのお話をさせていただく時間を設けていただき、国家公務員の方のリアルな声を聞くことができました。自分の仕事に誇りを持っているという方もいれば、本当は違う仕事がしたかったという方もいて、貴重な意見を聞くことができました。

実習はもちろんのこと、休日には北海道観光に連れて行っていただいたりして、良い思い出がたくさんできました。とても有意義で充実した2週間を送ることができて、お世話になった小樽道路事務所みなさんにはとてもよくしていただき、とても感謝しています。もうすぐ就職活動が始まりますが、今回の経験を活かして頑張ろうと思います。



インターンシップを終えて

建設環境工学科4年 高橋 健太

私は東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)で、インターンシップを行いました。

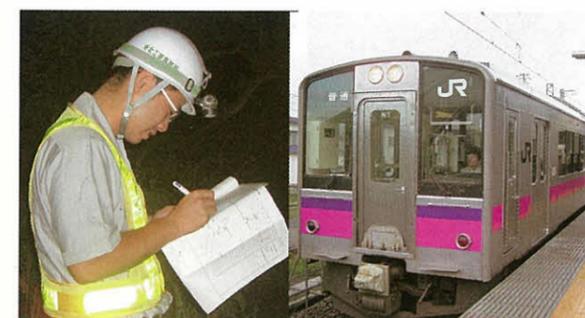
JR東日本では全国公募で実習生を募っていて、これに応募すると、小論文などによる一次審査、本社での面接による二次審査が行われます。これらの審査を経て、私はインターンシップを受け入れて頂くことになりました。

JR東日本の企業規模は鉄道会社では世界一を誇り、営業範囲も東日本全域を管轄する広大なものです。その中で、私は東北工事事務所青森工事区にお世話になりました。

現在、青森工事区では、東北新幹線工事に伴う在来線駅設備の移転改良工事や跨線橋の耐震補強工事などを担当しており、私はこれらの現場の施工管理業務に携わりました。

鉄道工事では土木の知識だけでなく、鉄道特有の知識も必要で、私には初めて聞く用語ばかりでしたが、親切に教えていただきました。業務の中で最も厳しく行われているのが「安全」についてです。作業上の安全は勿論のこと、列車運行の安全、お客様の安全等、多くの事に配慮しながら工事を進めなければなりません。特に列車運行中の線路内作業には二重三重の対策を施します。また工事は終電後に行われる場合もあり、私も夜間作業での新駅切替を体験しました。

今までは当たり前のように利用してきた鉄道はこういった影の力によって支えられているということを知ることができました。この経験を今後の学校生活に生かして行きたいと思っています。



インターンシップ報告

コミュニケーション情報学科

文部科学省インターンシップを終えて

コミュニケーション情報学科4年 飯島 美奈帆

私は8月20日から2週間、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課にてインターンシップを行いました。生涯学習政策局は、地域・家庭の教育力の向上や若者の自立支援に関する政策を進め、生涯学習社会の実現を目指して社会教育活動の場を提供することを主な業務としています。

一週目は22・23日に開催された霞ヶ関子ども見学デーについての業務をお手伝いさせていただきました。受付準備やアンケート集計のほか、見学デー当日は案内役として来省した子供たちとスキンシップをとるなど充実した時間を過ごしました。二週目は放課後子どもプランと専修学校についての書類作成など事務的な業務に当たり、実際に専修学校の視察にも同行させていただきました。

わずか2週間の実習でしたが、多くの方とお話しする中で「お役所は格式張っているもの」という認識が覆され、これまでは間接的にしか知ることがなかった国家公務員という職業の実態を垣間見ることができ、視野を広げるともいい機会となりました。また、一つの部署に留まらず様々な業務を体験させていただいたことで、自身の適性が掴めてきたように思います。学校で学んでいる情報処理スキルの有用性を知ると同時に、私自身が社会人として職場に適応するための資質が不足していることの自覚にも繋がりました。

今回のインターンシップを通じて出会った職員の方や同期のインターン実習生から多くを学び、自らの職業観を醸成させていく必要性を身にしみて感じました。今後は自身が備えるべき資質と職能を高めるために、勉学を中心とした自己研鑽により一層励んでいきたいと考えています。



「わたしらしさ」とは？

コミュニケーション情報学科4年 川辺 倫子

「川辺倫子にしか書けない記事を書いて下さい」という言葉を、インターンシップの期間中に何度聞いたでしょうか。その度に私は困惑した。私にしか書けない記事とは一体どんなものかさっぱり見当もつかなかったのだ。

私がお世話になったのは、平競輪場のすぐそばにオフィスを構える“日々の新聞社”。月2回、いわきの情報を伝える“日々の新聞”を発行している。なぜ、新聞記者志望ではないのにこの研修先を選んだのか一簡単に言ってしまうと、“出会い”が欲しかったからだ。様々な人との出会いはもちろん、今までなかった体験との出会い、ひいては新しい自分自身と出会うことができるだろうと考え、志願した。

しかし、出会いは私の想像よりはるかにシビアなものだった。自分では対処できないトラブルや自ら招いた判断ミス、新聞記事を書くという初体験。何より私にとって大きな壁となったのは私自身だ。それが冒頭の“私にしか書けない記事”につながる。マニュアル通りの対応や、無味乾燥でも上辺が整っている文章ならいいと思っていたが、実際に求められたのは“わたしらしさ”。独自色を出すためには自分自身を見つめ、理解しなければいけない。まさに、自分でも知らなかった自分と出会うための葛藤の日々だったように思う。

たった4週間で完璧に“らしさ”を身につけられたとは思わない。けれど、今後どのような職に就くとしても自分とはどのような人間なのか、何が私らしさなのか知っていることは重要だろう。そう実感させられる体験だった。

ところで、このインターンシップ報告も体裁を気にせず素直な気持ちで書いてみた。私にしか書けない文章になっているだろうか？日々の新聞社の皆さんにもぜひ読んで頂きたい。



インターンシップ報告

専攻科

「公設研究機関での研究体験」

機械・電気システム工学専攻1年 山口 泰寿

私はインターンシップとして、福島県ハイテクプラザの研究開発部で1ヶ月間の実習を行いました。実習テーマは「超微細放電加工機の使用法の習得及び研究活動補助」です。空気中の塵よりも小さな1000分の1ミリメートル単位の加工を行う超微細放電加工機を扱うためには、全身をクリーンウェアで覆い、露出している部分は目のみという状態でエアシャワーを浴び、クラス1000程のクリーンルーム内で作業しなければなりません。

この特殊な加工技術を使用して行った研究のテーマは「穴加工における電気条件の違いが加工時間、クリアランス、電極消耗率に及ぼす影響」です。この調査のために私は、加工電圧等の電気条件を変えながら、穴加工や長穴加工を繰り返し行いました。高い精度が要求されるこの機器による加工は、取り扱う際のほんの小さなズレでも、結果的にそのズレが加工した後の寸法に大きな誤差として生じてしまいます。そのため細心の注意を払い、それでもなお生じる誤差は次の実験時に修正を加え、要求される値に地道に近づけていかなければならず、とても根気の要る作業でした。

今回私がまとめた加工データは、今後もハイテクプラザにおける微細加工研究の参考データとして使用されるとあって、責任の大きさを感じつつも、それ以上にやりがいを感じながら臨むことができました。また、確かな結果を出すためにあらゆる作業に対して慎重に、かつ精確に取り組むことの重要性を改めて認識することとなりました。

この、研究に取り組む姿勢は自身の特別研究を行う上でも必須となるものであり、この1ヶ月間の貴重な体験を活かし、特別研究の質の向上に日々励んでいきたいと思っています。



インターンシップで学んだこと

物質・環境システム工学専攻1年 大林 洵

私はこの夏休みの間、APIコーポレーションいわき工場にてインターンシップを行ってきました。APIコーポレーションは医薬原体やファインケミカルなど様々な分野の化学製品を製造している会社です。いわき工場ではウルソと呼ばれる肝臓の医薬成分を生産しています。

まず、インターンシップを行って印象深かったのは報告が多いということでした。必ず毎朝、昨日の作業内容と今日の予定を報告する小会議があります。最初、私は毎日報告する必要があるのかと疑問に思いました。しかし実習を行っていくにつれ、業務を安全に、かつ能率的に行うためには必要なことなのだと感じました。さらに、プレゼンテーションの良い練習になったと思います。

最初の実習は、工場で行われている工程の一部を実験室で行うというものでした。これは今後の実験のためにも勉強になりました。また、実習の終わりに工場見学も行い、自分が実験室で行った操作が工場ではどのように動いているのかを学ぶことができました。

私はこの実習で今までぼんやりとしかわからなかった会社のイメージを明確にすることができました。それは、実際に職場に出向き、仕事を共にさせていただいて初めてわかることだと思っています。

最後に、お忙しい中御指導して下さいました生産技術課の皆様へ感謝の意を表し、結びとさせていただきます。



インターンシップ報告 専攻科



インターンシップ

ビジネスコミュニケーション学専攻
富塚 直人

私はいわき市の好間工業団地内にあるアルパインマニュファクチャリング株式会社好間工場において、一ヶ月のインターンシップを実施してきました。ここはアルパイン株式会社の製造部門であり、世界で有名な自動車メーカーの純正カーオーディオやカーナビなどの製造をしています。私がお世話になったのは、製造品内部の基板を生産する課でした。生産計画から資材管理、製造、品質管理、出荷管理と一ヶ月で基板生産に関係する多くのグループで実習させていただきました。“基板”というモノを製造するプロセスにおいて、学校で学んだ生産管理に関することを肌で感じることができ、とてもよい経験をすることができました。企業の方々に感謝いたします。



学生の活躍



卓球部、今年も頑張っています！

卓球部指導教員 一般教科教授 鳥居 孝栄

学校と保護者の皆様のご理解、ご支援のもと、卓球部は、今年度、すばらしい成果を収めています。

まず5月の今年度最初の大会において快挙を成し遂げました。高校体育大会いわき地区大会で、男子学校対抗・ダブルス・シングルス、女子学校対抗・ダブルス・シングルの全種目で優勝し、6冠を達成しました。男子は、新人戦で優勝していましたので、1位を堅守した形になりましたが、女子は、新人戦の時は、メンバーがいなくて不参加でしたので、シードにもなっていませんでしたが、新入生の活躍で、予想を上回る好成績を残しました。

高校体育大会の県大会では、帝京安積高校、小高工業高校など常連校の中、男女とも、団体戦で3位に食い込みました。また女子シングルスで東北大会出場権を獲得しました。大健闘でした。

国体の予選である県総合体育大会では、男子団

体がベスト8、女子団体は2位でした。県2位は素晴らしい成績だと思います。

高校の大会だけでなく、高専大会でも成果を上げました。男子の団体は、全国大会で3位に入賞しました。女子は庄勝で、シングルスで西山選手が優勝（3連覇）、ダブルスで西山・玄組が優勝（4連覇）、吉田・安島組が3位に入りました。

西山選手、玄選手は、9月に行われた福島県の社会人選手権でもシングルスでもともに3位、ダブルスで優勝して、11月に山口県周南市で行われる全国大会に出場することになりました。

このようにすばらしい成果が上がっているのも、橋本彰夫コーチの熱心なご指導と、保護者並びにOBのご支援のおかげだと思っています。それにもう一つ、4月から新入生がたくさん入部し、部全体にみなぎる活気が後押ししてくれているように思います。今年度四国で行われた高専大会の全国大会にも、遠路はるばる保護者並びにOBの方々が駆けつけてくださいました。本当に感激しました。卓球部は、今後とも頑張っていきたいと思いますので、ご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

学生の活躍

高専体育大会の結果(平成19年度)

東北地区大会

八戸大会			
■陸上競技			
【男子】			
学校対抗		優勝	第2位
100m	佐藤 優介 (5 K)	第1位	第1位
200m	佐藤 優介 (5 K)	第1位	第1位
400m	矢内 将喜 (5 K)	第1位	第1位
800m	伊藤 良 (3 M)	第3位	第3位
"	勝沼 将人 (2 C)	第2位	第2位
1500m	山崎 翔太 (4 K)	第2位	第2位
"	佐藤 篤志 (5 M)	第3位	第3位
5000m	山崎 翔太 (4 K)	第1位	第1位
"	猪 孝一 (3 M)	第3位	第3位
110mH	星 尚之 (3 I)	第2位	第2位
"	菅波 祐太 (5 K)	第3位	第3位
3000m S C	坂本 貴史 (3 E)	第1位	第1位
"	金川 翔弥 (1 M)	第3位	第3位
4×100mR		第1位	第1位
4×400mR		第1位	第1位
走幅跳	稲場豊由季 (4 E)	第3位	第3位
三段跳	佐藤 義剛 (2 M)	第1位	第1位
"	大澤 晋作 (3 M)	第3位	第3位
砲丸投	星 尚之 (3 I)	第3位	第3位
やり投	高萩 滋光 (2 M)	第1位	第1位
円盤投	佐藤 健生 (5 E)	第1位	第1位
"	高萩 滋光 (2 M)	第2位	第2位
【女子】			
学校対抗		優勝	第1位
100m	久保田有希 (4 C)	第1位	第1位
"	小野 花也 (1 I)	第2位	第2位
800m	久保田有希 (4 C)	第1位	第1位
4×100mR		第1位	第1位
走高跳	河原田あさ美 (4 I)	第1位	第1位
走幅跳	河原田あさ美 (4 I)	第2位	第2位
"	小野 花也 (1 I)	第3位	第3位
円盤投	芳賀 怜香 (1 I)	第1位	第1位
■卓球			
【男子】			
団体戦		第2位	第2位
ダブルス	丹野淳(3 K)・水野潤樹(3 K)	第2位	第2位
【女子】			
シングルス	西山 綾香 (4 K)	第1位	第1位
"	玄 祥子 (4 I)	第2位	第2位
ダブルス	西山綾香(4 K)・玄祥子(4 I)	第1位	第1位
"	吉田春奈(4 I)・安島真理(1 I)	第2位	第2位
■剣道			
【男子】			
個人戦	三浦 慎平 (3 E)	第4位	第4位
【女子】			
個人戦	鈴木 摩耶 (5 K)	第1位	第1位
■テニス			
【男子】			
団体戦		第1位	第1位

シングルス	押鐘 敬之 (5 K)	第2位	第2位
ダブルス	斉藤聖也(4 E)・押鐘敬之(5 K)	第1位	第1位
【女子】			
団体戦		第1位	第1位
シングルス	四家 彩渚 (3 C)	第1位	第1位
"	倉持 尚子 (5 K)	第2位	第2位
ダブルス	四家彩渚(3 C)・馬上春菜(4 I)	第1位	第1位
"	倉持尚子(5 K)・木幡瑠美(5 C)	第2位	第2位

宮城大会

■水泳			
【男子】			
学校対抗		第2位	第2位
100m自由形	蛭田 昌孝 (3 M)	第2位	第2位
200m自由形	蛭田 昌孝 (3 M)	第1位	第1位
400m自由形	藁谷 庄平 (3 M)	第1位	第1位
800m自由形	藁谷 庄平 (3 M)	第1位	第1位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎 (3 M)	第3位	第3位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎 (3 M)	第1位	第1位
200m背泳ぎ	若松 大介 (1 E)	第3位	第3位
400mメドレーリレー		第1位	第1位
400mリレー		第1位	第1位
800mリレー		第1位	第1位
【女子】			
100m自由形	大原 早樹 (4 K)	第1位	第1位
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (1 I)	第2位	第2位
50m背泳ぎ	大原 早樹 (4 K)	第1位	第1位

■バドミントン

【男子】			
シングルス	小松 祐城 (3 E)	第2位	第2位
ダブルス	比佐光一(3 E)・伊藤勲信(2 K)	第2位	第2位

■ソフトテニス

【男子】			
団体		第2位	第2位
■サッカー			
第2位			

全国大会

■陸上競技			
【男子】			
阿南高専 (鳴門市鳴門総合運動公園陸上競技場)			
学校対抗		第9位	第9位
100m	佐藤 優介 (5 K)	予選敗退	予選敗退
200m	佐藤 優介 (5 K)	第8位	第8位
400m	矢内 将喜 (5 K)	第2位	第2位
800m	伊藤 良 (3 M)	予選敗退	予選敗退
"	勝沼 将人 (2 C)	予選敗退	予選敗退
1500m	山崎 翔太 (4 K)	予選敗退	予選敗退
"	佐藤 篤志 (5 M)	第11位	第11位
5000m	山崎 翔太 (4 K)	第8位	第8位
"	猪 孝一 (3 M)	予選敗退	予選敗退
110mH	星 尚之 (3 I)	予選敗退	予選敗退
"	菅波 祐太 (5 K)	予選敗退	予選敗退
4×100mR	星・矢内・稲場・佐藤	第7位	第7位

学生の活躍

4×400mR	佐藤・伊藤・星・矢内	第1位	第1位
走幅跳	稲場豊由季 (4 E)	予選敗退	予選敗退
三段跳	佐藤 義剛 (2 M)	予選敗退	予選敗退
"	大澤 晋作 (3 M)	予選敗退	予選敗退
砲丸投	星 尚之 (3 I)	予選敗退	予選敗退
やり投	高萩 滋光 (2 M)	予選敗退	予選敗退
円盤投	佐藤 健生 (5 E)	予選敗退	予選敗退
"	高萩 滋光 (2 M)	予選敗退	予選敗退

【女子】

100m	久保田有希 (4 C)	予選敗退	予選敗退
"	小野 花也 (1 I)	予選敗退	予選敗退
800m	久保田有希 (4 C)	第6位	第6位
走幅跳	河原田あさ美 (4 I)	予選敗退	予選敗退

■卓球

【男子】			
詫間電波高専 (丸亀市体育館)			
団体戦		ベスト4	ベスト4
ダブルス	丹野淳(3 K)・水野潤樹(3 K)	予選敗退	予選敗退
【女子】			
シングルス	西山 綾香 (4 K)	第1位	第1位
"	玄 祥子 (4 I)	予選敗退	予選敗退
ダブルス	西山綾香(4 K)・玄祥子(4 I)	第1位	第1位
"	吉田春奈(4 I)・安島真理(1 I)	ベスト4	ベスト4

■剣道

【男子】			
弓削商船高専 (愛媛県武道館)			
個人戦	三浦 慎平 (3 E)	1回戦敗退	1回戦敗退
【女子】			
個人戦	鈴木 摩耶 (5 K)	1回戦敗退	1回戦敗退

■テニス

【男子】			
高松高専 (香川県総合運動公園香川県営テニスコート)			
団体戦		2回戦敗退	2回戦敗退
シングルス	押鐘 敬之 (5 K)	2回戦敗退	2回戦敗退
ダブルス	斉藤聖也(4 E)・押鐘敬之(5 K)	1回戦敗退	1回戦敗退
【女子】			
シングルス	四家 彩渚 (3 C)	第2位	第2位
"	倉持 尚子 (5 K)	1回戦敗退	1回戦敗退
ダブルス	四家彩渚(3 C)・馬上春菜(4 I)	ベスト4	ベスト4
"	倉持尚子(5 K)・木幡瑠美(5 C)	2回戦敗退	2回戦敗退

■水泳

詫間電波高専 (香川県立総合水泳プール)			
団体総合			
【男子】			
100m自由形	蛭田 昌孝 (3 M)	第7位	第7位
200m自由形	蛭田 昌孝 (3 M)	第7位	第7位
400m自由形	藁谷 庄平 (3 M)	第3位	第3位
800m自由形	藁谷 庄平 (3 M)	第1位	第1位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎 (3 M)	第5位	第5位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎 (3 M)	第4位	第4位
200m背泳ぎ	若松 大介 (1 E)	予選敗退	予選敗退
400mメドレーリレー		第4位	第4位
400mリレー		第3位	第3位

【女子】

100m自由形	大原 早樹 (4 K)	第3位	第3位
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (1 I)	第3位	第3位
50m背泳ぎ	大原 早樹 (4 K)	第1位	第1位
400mリレー	大原 早樹 (4 K)	第1位	第1位
"	(東北選抜)		
"	高橋 奈々 (1 I)	第4位	第4位
"	(東北・北海道選抜)		

■バドミントン

【男子】			
新居浜高専 (新居浜市民体育館)			
シングルス	小松 祐城 (3 E)	1回戦敗退	1回戦敗退
ダブルス	比佐光一(3 E)・伊藤勲信(2 K)	1回戦敗退	1回戦敗退

■ソフトテニス

【男子】			
高知高専 (高知市東部総合運動場テニスコート)			
団体		予選敗退	予選敗退

■サッカー

高知高専 (野市ふれあい広場サッカー場)			
1回戦敗退			

高等学校体育大会等の結果

◎第53回福島県高等学校体育大会 県大会

■陸上

【男子】			
三段跳	佐藤 義剛 (2 M)	第8位	第8位
八種競技	星 尚之 (3 I)	第3位	第3位
(東北大会出場)			

■ソフトテニス

男子団体			
1回戦敗退			

■テニス

【男子】			
団体戦		2回戦敗退	2回戦敗退
【女子】			
団体戦		2回戦敗退	2回戦敗退
シングルス	四家 彩渚 (3 C)	1回戦敗退	1回戦敗退
ダブルス	四家彩渚(3 C)・海野沙織(3 C)	ベスト16	ベスト16

■卓球

【男子】			
学校対抗		第3位	第3位
シングルス	丹野 淳 (3 K)	ベスト16	ベスト16
"	水野 潤樹 (3 K)	ベスト16	ベスト16
"	谷水 信吾 (2 K)	ベスト16	ベスト16
ダブルス	丹野 淳(3 K)・水野潤樹(3 K)	ベスト8	ベスト8

【女子】

学校対抗		第3位	第3位
シングルス	安島 真理 (1 I)	ベスト12	ベスト12
(東北大会出場)			

■空手道

男子個人組手			
渡辺 和英 (2 K)	3回戦敗退	3回戦敗退	3回戦敗退
男子個人型			
渡辺 和英 (2 K)	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退

学生の活躍

■剣道
【男子】
団体 1回戦敗退

■バドミントン
【男子】
団体 ベスト8
シングルス 小松 祐城(3E) 1回戦敗退
伊藤 勲信(2K) 1回戦敗退
ダブルス 小松祐城(3E)・湯本高校選手 1回戦敗退
永峰陽介(3M)・石山宏哉(3M) 1回戦敗退

■水泳
【男子】
50m自由形 蛭田 昌孝(3M) 第8位
(東北大会出場)
100m自由形 横山 将平(3M) 予選敗退
200m自由形 蛭田 昌孝(3M) 予選敗退
小林 拓真(2C) 予選敗退
藁谷 庄平(3M) 第2位
(東北大会出場)
400m自由形 佐藤 智彦(3C) 予選敗退
小林 拓真(2C) 予選敗退
藁谷 庄平(3M) 第3位
(東北大会出場)
100m平泳ぎ 佐藤 智彦(3C) 予選敗退
西間木悠輔(1M) 予選敗退
浅田紳太郎(3M) 予選敗退
200m平泳ぎ 西間木悠輔(1M) 予選敗退
浅田紳太郎(3M) 予選敗退
五十嵐大輝(3E) 予選敗退
100m背泳ぎ 若松 大介(1E) 予選敗退
鈴木 達也(2I) 予選敗退
200m背泳ぎ 若松 大介(1E) 予選敗退
鈴木 達也(2I) 予選敗退
100mバタフライ 星 文弘(1K) 予選敗退
200mバタフライ 星 文弘(1K) 予選敗退
大金 祐哉(3M) 失格
400mリレー 第8位(東北大会出場)
800mリレー 予選敗退
400mメドレー 予選敗退

【女子】
200m自由形 猪狩あゆみ(1M) 予選敗退
秋元 茉耶(1C) 予選敗退
100m平泳ぎ 高橋 奈々(1I) 予選敗退
200m平泳ぎ 高橋 奈々(1I) 予選敗退

◎平成19年度 東北学連春季競技会

男子400m 矢内 将喜(5K) 第4位
男子5000m 山崎 翔太(4K) 第8位
男子走幅跳 稲場豊由季(4E) 第8位

◎第60回東北学生陸上競技選手権大会

男子400m 矢内 将喜(5K) 第5位
男子10000m 佐藤 篤志(5M) 第6位
男子400mH 矢内 将喜(5K) 第4位

男子走幅跳 中村 哲也(専2) 第9位

◎第62回東北高等学校陸上競技大会

【男子】
八種競技 星 尚之(3I) 落選

◎第61回東北高等学校卓球選手権大会

【女子】
シングルス 安島 真理(1I) 1回戦敗退

◎第60回福島県総合体育大会 県大会

■陸上競技
【男子】
100m 中村 哲也(専2) 第7位
(東北総体出場)
400m 矢内 将喜(5K) 第4位
400mH 矢内 将喜(5K) 第4位
(東北総体出場)
4×100mR 第4位
4×400mR 優勝
(3年連続)

■テニス
【男子】I部
シングルス 大平 隆裕(3E) 3回戦敗退
市井 雅伸(3C) 3回戦敗退
渡部 秀章(3C) 2回戦敗退
大山 慎平(3M) 2回戦敗退
ダブルス 大平隆裕(3E)・市井雅伸(3C) 1回戦敗退
小堺健生(3C)・藤田将史(2C) 1回戦敗退

【男子】II部
シングルス 武田 章宏(1K) 3回戦敗退
武田章宏(1K)・大平悠介(1E) 3回戦敗退
佐藤大樹(1E)・菅野晃司(1I) 3回戦敗退
ダブルス

【女子】I部
シングルス 横田 愛梨(2C) 2回戦敗退
【女子】II部
シングルス 塚本 仁美(1I) 2回戦敗退
塚本仁美(1I)・笹越千晴(1C) 3回戦敗退
佐藤愛瑠奈(1C)・松田美穂(1I) 2回戦敗退
ダブルス

■卓球
【少年男子】
団体 ベスト8
シングルス 渡辺 大樹(1K) 2回戦敗退
江尻 義史(1K) 2回戦敗退
石井 侑希(1K) 2回戦敗退

【少年女子】
団体 第2位
シングルス 小野 緑(1K) ベスト16
猪狩 美咲(1C) ベスト32
安島 恵理(1K) ベスト32

■バドミントン
【男子】
シングルス 小松 祐城(3E) 1回戦敗退
比佐 光一(3E) 1回戦敗退

学生の活躍

ダブルス 伊藤 勲信(2K) 1回戦敗退
小松祐城(3E)・湯本高校選手 1回戦敗退
比佐光一(3E)・伊藤勲信(2K) 3回戦敗退
永峰陽介(3M)・石山宏哉(3M) 棄権

■水泳
【少年男子】
100m自由形 藁谷 庄平(3M) 第3位
200m自由形 蛭田 昌孝(3M) 第9位
400m自由形 藁谷 庄平(3M) 第3位
50m平泳ぎ 浅田紳太郎(3M) 第4位

【少年女子】
50m平泳ぎ 高橋 奈々(1I) 第8位
【一般男子】
50m平泳ぎ 植田 耕平(3K) 第1位
50m自由形 氏家 裕介(5E) 第1位
100m自由形 氏家 裕介(5E) 第1位
二瓶 元気(1ME) 第2位
二瓶 元気(1ME) 第1位

【一般女子】
50m背泳ぎ 大原 早樹(4K) 第1位
100m背泳ぎ 大原 早樹(4K) 第1位

■空手道
【一般男子】
個人組手軽量級根本 亮介(5E) 第3位

◎第62回東北水泳大会

【男子】
50m自由形 蛭田 昌孝(3M) 予選敗退
200m自由形 藁谷 庄平(3M) 第9位
400m自由形 藁谷 庄平(3M) 予選敗退
400mリレー 失格

◎平成19年度福島県社会人卓球選手権大会

【男子】
ダブルス 吉田和真(5C)・芳賀俊哉(5C) 第3位

【女子】
シングルス 西山 綾香(4K) 第3位
(全国大会出場)
玄 祥子(4I) 第3位
(全国大会出場)

ダブルス 西山綾香(4K)・玄 祥子(4I) 優勝
(全国大会出場)

各種大会等の結果

◎吹奏楽部
第45回福島県吹奏楽コンクール 金賞(県代表)
第49回東北吹奏楽コンクール 銅賞

◎将棋部
第43回全国高校将棋選手権大会 福島県大会
博多 大樹(1E) 予選敗退
長谷川 涼(1E) 予選敗退
渡辺 亮(1E) 予選敗退

永井 駿(1I) ベスト16
第20回全国高等学校将棋竜王戦 福島県大会
博多 大樹(1E) 1回戦敗退
長谷川 涼(1E) 1回戦敗退
渡辺 亮(1E) 1回戦敗退
大竹 剛史(1K) 1回戦敗退
永井 駿(1I) 1回戦敗退

第14回全国高等学校将棋大会
団体 1回戦敗退
個人戦 佐藤 隆生(5C) ベスト64
國分 啓徳(4E) ベスト64
大竹 剛史(1K) 予選敗退
永井 駿(1I) 予選敗退

◎全日本学生ローラー&FCカーチャレPオンシツP

JISFC・WS 総合18位
JISFC ストッククラス 第2位

◎第9回全日本中学高校Webコンテスト

ThinkQuest@JAPAN2007
小野 紗貴(3C)・鈴木公美(4I)・
永山 友美(4I) 高校生の部 銀賞

◎分子生物学愛好会

第19回知能ロボットコンテスト2007
・チャレンジコース 決勝第5位
横田愛梨(2C)・中山美歩(2C)・
高木春香(2C) (あすなろ賞)
・テクニカルコース 1次予選敗退
国分鮎美(4C)・田中愛里(4C)

◎写真部

・いわき地区高等学校写真連盟写真撮影会 参加
・いわき地区高等学校写真連盟写真展
春爛漫 佐藤大志(3M) 入選
太平洋の日差し 加藤湧亮(1K) 入選
海を眺めながら 加藤湧亮(1K) 入選
・会津方面(大内宿・塔のへつり・湯野上温泉駅)
・第14回東北地区高専文化部発表会 写真部門
「絵本の輝き」 加藤湧亮(1K) 特選
「夏家族」 庄子沙織(2C) 入選
「技」 佐藤大志(3K) 入選

◎茶華道部

いわき学校茶道連盟第23回合同発表会 参加

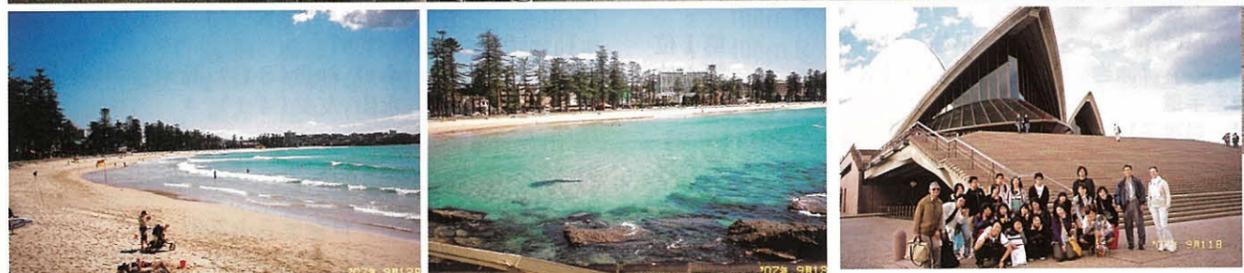
◎サイクリング部

第26回松原湖一周ファミリーサイクリング大会 参加
第40回福島県サイクリングいわき大会 参加

◎山岳部

磐梯山登山 実施

オーストラリア生活体験記



初の学生海外研修実施

国際交流委員長 鳥居 孝栄

9月1日から9月15日まで、国際交流委員会の初の試みとして、学生の海外研修を実施しました。場所は、オーストラリア、シドニー市の近郊のマンリーという町です。2年生3名、3年生17名、合計20名の学生が参加しました。マンリーは、太平洋に面した美しい海岸リゾート地で、私たちが到着した時は、まだ冬が終わったばかりだったのですが、日が差すと温かく、泳いでいる人もかなりいました。日が陰ると、さすがに寒くなり、夜は冷え込んだ日もありました。

午前中は、語学スクールで英語の授業を受けました。授業は、英語を話すことが中心でした。日常会話も練習しましたが、APECの開催中だったので、APECに関する議論をしたりもしました。話すだけでなく、時制などの文法の指導や発音の指導、オーストラリアの自然・歴史（特に原住民）に関する読解などもやりました。授業以外にも、

午後や週末を中心に、シドニーの水族館・博物館・オペラハウス、車で2時間くらいのところにあるブルーマウンテン、また地方の学校などを訪問・見学しました。宿泊は、全員ホームステイで、オーストラリアの家庭料理、家庭生活を楽しんでいたようです。

学生たちに今回の研修の感想を尋ねたところ、非常に好評でした。学生たちは、たくさんのことを学び、オーストラリアの生活を十分に楽しんできたようです。費用が27~28万円と高いのですが、学生たちにとっては、素晴らしい体験なので、来年度以降も、実施について考えていきたいと思っております。



オーストラリア生活体験記

Australia

コミュニケーション情報学科3年 小野 愛実

9時間のフライトのあとに降り立ったのはオーストラリアでした。私にとっての初めての海外、初めてのホームステイ。

私がホームステイした家は、独り暮らしのイタリア人のおばあちゃんの家でした。彼女の趣味は料理で、マフィンやパンを焼いてくれたり、晩ご飯にはニョッキを作ってくれたり、ご飯に関しては困る事はありませんでした。たまに彼女の娘さんや友達が来ると、イタリア語で喋りまくるので私たちはただ呆然と見てることしか出来ませんでした。

オーストラリアでの二週間、平日の午前中は学校へ行き、午後にはたくさんの場所へ訪れました。二週間で訪れたのは水族館、ブルーマウンテン、動物園、シドニー博物館、オペラハウス、バンクスタウンシニアカレッジという学校などでした。

ブルーマウンテンに行った日、その前日には雨が降っていたので地面はぐしゃぐしゃで靴は汚れるし肌寒いし標高が高いので最悪でした。高いところが好きな人は晴れた日に行ってみるといいと思います。オペラハウスでは館内の見学はできませんでしたが、近くから見るオペラハウスはすごく大きくて、綺麗でした。ここでブッシュたちが集まったかと思うと、改めてすごい場所なんだと実感しました。

最後に、このホームステイでは「話すときに文法なんか関係ない」と感じました。自分がホストファミリーに何かを伝えたいとき、身振り手振りとある程度の単語、そして伝えたいという意思があれば結構通じるものなんです。それをとても実感しました。たった2週間のホームステイでも、買い物したりする程度の英会話は苦勞せずにこなせるようになります。綺麗な海と砂浜のオーストラリアでまた暮らしたいと思いました。



オーストラリア海外研修を終えて

コミュニケーション情報学科3年 渡邊真菜花

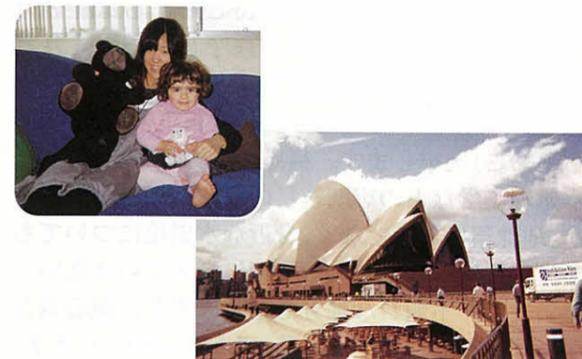
私は先日の夏休みを利用してオーストラリア海外研修に参加しました。そこで過ごした時間はとても素晴らしく、忘れられないものとなりました。

私のホームステイ先はホストマザーのフローラと1ヶ月ほど前からすでにホームステイをしている中国人のリンの2人に加え、フローラの息子のジョージ、娘のアニータ、孫のステラとタリアが頻りに訪れるというようにとても温かい家庭でした。家はレンガ造りのアパートでホームステイ先としてはかなり小さいほうだとリンに教えられましたがリビングで過ごす時間が長い分、家族と会話をする機会もたくさんあったので私は良い環境の中で生活できたと思っています。

自分が言いたいことをつたない英語で伝えたり、相手の言っていることを理解することは簡単ではありませんでしたがジェスチャーなどを加えることで意志の疎通は可能でした。学校ではその日の午後に訪問する場所につわる内容の勉強や、前日に訪れた場所で自分が見たもの、楽しかったことを英語で伝えるゲーム感覚の授業などが行われました。

私たちが2週間の間に訪れた場所はとても素晴らしい場所ばかりでした。とりわけオペラハウスは見学中にリハーサルをしているオーケストラの方々の姿を見ることができ、素敵な雰囲気を感じて良かったです。この旅行に参加して、英語を学びたいという気持ちが強くなりました。

再びオーストラリアへ行く機会があるならば、もう1度ホストファミリーの家を訪ねてもらってしゃべりができればと思います。今回の旅行でお世話になったすべての人に心から感謝しています。ありがとうございました。



新任教職員紹介



機械工学科教授
天野 耀鴻

この度、機械工学科の教員となり、その責任の重さを常に感じている。教育の目的は物を作ることにあるのではなく、人を育てることにあるので、その重責に身の引き締まる思いがしている。今後、学生諸君は学校でも社会でも、厳しい現実と出会うと思うが、理想を持って、逃げないで、諦めないで、恐れなくて、難問と対決して欲しい。

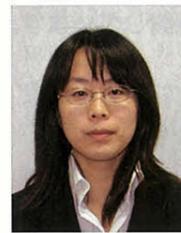
確かに、青春は人生にたった一度しか来ないもので、学生達に価値がある青春を送るため、教育に精一杯で頑張っていきたい。



機械工学科助教
平尾 篤利

4月から機械工学科に着任した平尾篤利です。これまで、大学では精密加工に関する研究に勤んでおりました。特に在籍

していた研究室では、研究に使用する機械装置・制御回路などを全て自作していました。自作装置の作製は、実践的なもの作りに繋がるだけでなく、装置や測定器の原理を勉強・学習することが出来ます。これらの経験を生かし、福島高専では、自分で考え、実行できる学生の教育に励みます。



建設環境工学科助教
高荒 智子

みなさん、こんにちは。3月に大学院を修了し、この4月より、建設環境工学科の助教として赴任しました高荒智子(たかあ

らともこ)と申します。福島県小野町の出身です。水処理工学などの専門教科の授業を担当しています。地球環境だけでなく、身近な水環境についても学生や地域のみなさんと一緒に考えていきたいと思っております。不慣れな部分もありますが、誠心誠意がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



コミュニケーション情報学科教授
脇田 淳一

東京の大田区で生れ5歳の時世田谷区の瀬田に移り24歳まで生活の拠点でした。その後就職で大分市に移り、30年を超える

サラリーマン生活を経て、今回福島高専にお世話になることになりました。目下、単身赴任で単身生活の厳しさを身をもって体験しています。いわき市は一説によると東北のフロリダとのこと。寒がりの私には大変嬉しい事です。少しずつ体を慣らして本来業務に邁進しますのでどうか宜しくお願いします。



コミュニケーション情報学科講師
松本 行真

生まれは茨城県の勝田(現ひたちなか市)でして、その後すぐに東京の郊外にある町田で5年、次いで多摩ニュータウンに

住み、その間仙台に数年住んだり通ったりして、今に至っております。振り返ると、大都市とその郊外、地方の政令指定都市、そして30万の地方都市と色々なところに住んでいる、いわば「デラシネ」のような存在と言えましょうか。このいわきでも「来街者」視点で過ごそうと思っております。よろしくお願い申し上げます。



一般教科講師
高橋 圭介

今年4月に一般教科講師として着任いたしました、高橋圭介です。これまでは、言語学の中でも、意味論と呼ばれる、語の意味

や文の意味を考察対象とする分野で研究を行ってまいりました。担当している授業は、主にコミ科の「日本語」関連科目です。授業の中では、「読み」「書き」能力の向上に加えて、ことばそのものの仕組みやそのおもしろさを少しでも伝えることができたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新任教職員紹介



一般教科講師
鈴木 正樹

4月より一般教科の講師として着任いたしました。博士後期課程終了後は2年間ポスドクとして研究に励んでまいりました。

専門は微分方程式で、現在はパルルヴェ方程式と呼ばれる2階非線形常微分方程式を主な対象にしています。100年ほど前にポアンカレによって評された「絶海の孤島」パルルヴェ方程式。この島に数学大陸からの橋を架けつつ、教育や学生指導に関しても微力ながら精一杯努力したいと思います。



事務部長
加藤 豊造

8月1日付けで、自然科学研究機構国立天文台総務課長から本校に異動いたしました。私は

長野県木曾開田高原(御岳山麓)出身なので、自然と海の幸が豊かな「いわき」が気に入りました。高専での勤務は、随分前ですが平成10年から3年間の旭川に次いで2回目となります。平成16年の法人化に伴い、高専も従来よりも一層鮮明に特色を打ち出して、地域社会に貢献することが求められています。行財政改革により運営費交付金が減少する中で、教職員が一体となって教育、研究、産官学連携等を着実に推進し、成果を挙げる必要があります。本校の現状やいわきの土地柄、気風をできる限り早急に把握して、微力ではありますが、業務に精励したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



総務課調達係長
千葉 純也

この度、4月1日付けで総務課調達係長に赴任してまいりました千葉純也と申します。

前任地は、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構です。

高専のイメージは、予算規模が少ない…調達業

務も少ない…と思っていましたが、調達系の業務を見てみると、多種多様にわたることが多く、浅く広くという感想を持ちました。先日も校内で蜂の巣が見つかったということで、私と係員そして関係者と一緒になって、蜂の大群に襲われながらも無事駆除することが出来ました。これからはあらゆることに対応できるよう、微力ではありますが精一杯努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



総務課調達係
星 貴人

8月1日より総務課調達係に採用になりました星貴人です。氏名読みは、ほしたかひとです。出身はいわき市内郷です。

まだ採用されて3ヶ月ということで勉強の毎日ですが、高校の同級生である阿部君や、先輩の渡辺さん達がいてくれたおかげで、働きやすい環境でとても充実した日々を送っています。

今後、経験不足ゆえに迷惑をかけるかもしれませんが、精一杯努力し頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いします。



総務課財務係
加賀 淳子

こんにちは、加賀淳子です。今年の4月から福島高専の総務課財務係に採用されました。最初は、土地にも仕事にも不慣れで、とま

どうことばかりでした。半年間勤めた現在、いわきでの生活にはだんだんと慣れてまいりましたが、仕事に関しては、努力中ということで、皆様にご迷惑をおかけしてばかりいます。これから、さらに多くのことを学びながら頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新任教職員紹介



総務課施設管理係長
木村 喜久平

9月1日付で施設管理係長として採用していただきました木村喜久平と申します。よく珍しい名前と言われ、皆さんに覚えていただくのが早いようです。東北の湘南といわれる(地元では言うのでしょうか?)いわきの地に来る前は、東北大学施設部で施設整備という工事の発注に携わり、大学病院などの大きな建物の建設工事(金額も数十億単位)でも経験させていただきました。高専の予算はもっともっと少ないものですが、施設の整備・管理の考えは一緒に施設利用者の安全・衛生面を優先的に仕事を進めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



学生課教務係
會田 俊

平成18年12月1日付で採用となりました、教務係の會田俊です。出身地は郡山ですが、生まれてから小学2年生まではいわきに住んでいたもので、ふるさとに帰ってきたような気分です。今年度会計課から学生課に異動してきて、学生の皆さんと接する機会が多くなりました。そこで感じたのが、皆さんのまじめさと素直さです。困ったこと、分からないことがあったら、すぐ学生課にいらしてください。お待ちしております。



学生課学生支援係
遠藤 礼子

4月から福島高専の職員として勤務し、半年が経過いたしました。私がいる学生課は、学生の皆さんと接する機会が多いところでもあります。今年の3月に大学を卒業したばかりで、経験が浅く、頼りない部分がたくさんあると思います。しかし、学生に一番近い立場になって物事を考えることができるのではないかと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

平成19年度 学校開放推進事業

第2回中学生プログラミングコンテスト

情報処理教育センター長 大槻 正伸

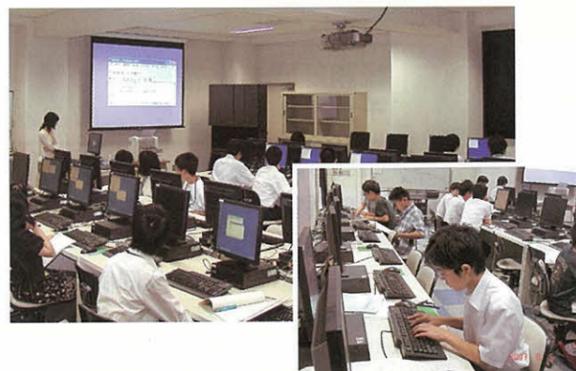
今年度で第2回になる福島高専主催「中学生プログラミングコンテスト」(以下「プロコン」)がこの8月5日(日)に開催されました。今年は8チーム参加で会場のコミ演習室の収容限界でした。開会式での奈良校長先生のご挨拶、ルール説明の後、コンテストでは1チーム3人(それ以下でも参加可)が、2時間で、10進Basicにより20問の問題を解いてその得点を競いました。

プロコンの1週間前に公開講座「中学生のためのプログラミング入門」を開催し、そこでプログラムに慣れて、1週間自習してプロコンに参加できるスケジュールです。公開講座には約60名が参加しそのうちの何人かがチームを組んでプロコンに参加してくれました。

問題は「3つの数a, b, cを入力し、最大値を表示するプログラムを作って下さい(5点)」「チェスの盤を表示するプログラムを作って下さい(20点)」というようなものが20題あり、プログラムができればメール添付で採点者あてに送ります。送られたプログラムは即時に採点され、リアルタイムで採点結果がスクリーンに表示されるようになっていきます。

結果は、優勝は小名浜1中(本田君、菅野君)、準優勝は(個人)野口君、第3位は郡山3中(佐藤君、上野君、平館君)でした。

中学生の理数系離れを少しでも解消し、また高専に興味をもつ中学生を増やすためにも、公開講座～プロコンというのは大変いい企画であると思います。今後も情報センターが中心となり、毎年開催したいと考えています。



ロボコン☆プロコン

高専ロボットコンテスト東北地区大会

ロボット技術研究会 指導教員
物質工学科教授 天野 仁司

今年の課題はロボット騎馬戦で、マシンが直接お互いの持つ旗を奪い合うというものです。昨年までの課題に比べ平易なものだったため、マシンの完成度も高く、練習も十分に行って大会に臨んだはずでした。しかしながら、結果はAチームが一回戦敗退、Bチームが二回戦敗退。しかもいずれも勝てる試合を操縦・戦略という人為的なミスで落としてしまいました。奇しくも、昨年の大会と全く同じパターンです。ところが、その後も同じでした。Bチームは一回戦では強豪チームの旗5本を全て取る「大勝利」を達成したこともあり、「技術賞」を受賞して全国大会出場権(審査員推薦)を獲得しました。さらに、Bチームの幟(のぼり)は、いわき市と天栄村の中学生に原図を製作していただいたもので、地域との強い絆が表現されています。それに、なんとインタビューを受けた観客が、その原図を描いた生徒さんだったので。そのような偶然もあってか、幟のデザインを評価される「風林火山賞」も合わせて受賞することになりました。今は、Bチームは全国大会での優勝を目指して、AチームはBチームの練習相手として、全国大会に向けて全力を尽くしています。全国大会も、去年と同様に上位に進出できることを期待しています。



Aチーム：マシン名「足軽」(赤旗方)



Bチーム：マシン名「機馬」(赤旗方)

全国高専プログラミングコンテスト

～来年は福島で開催です～

プログラミング愛好会指導教員
コミュニケーション情報学科講師 島村 浩

10月6、7日に岡山県の津山市で全国高等専門学校第18回プログラミングコンテスト本選が開催されました。本校からは、課題部門1チーム5名、競技部門1チーム3名が出場しました。結果は、課題部門で敢闘賞、競技部門は1回戦敗退後、敗者復活戦で敗退となりました。会場の津山文化センターは、手狭で十分なスペース確保が困難だったため、不自由な点も多かったようですが、津山高専の教職員、学生諸君の献身的な働きで、好評のうちに幕を下ろしました。

特に、競技部門の運用システムを構築し、特別講演まで行った津山高専専攻科2年の井上恭輔君の働きは、驚嘆に値しました。「今の自分があるのは、プロコンのお陰」との発言は、天才プログラマー/スーパークリエイターの称号を得た、彼ならではの言葉で、非常に説得力のあるものでした。

今回は、来年度の第19回大会が福島高専主管となるため、校長先生、事務部長、学生主事、教員5名、職員5名、学生3名に情報収集のため同行、視察して頂きました。ロボコンに比べて知名度の低いプロコンですが、ほぼ全国の高専が一堂に集結し、海外からの参加もあります。

参加者から「福島大会はとてもよかった」、「いわきに来てよかった」、「楽しい大会だった」と言ってもらえるためには、教職員と学生諸君が一丸となって、ホスト校として何が出来るかを真剣に考え、良い大会を実現しようとする意気込みが不可欠でしょう。

思い出深い、素晴らしい大会となるよう、皆様のご理解と、ご協力をお願いいたします。

何しろ、その次に来るのは、約50年後ですから...



行事予定 (10月から3月)

10月	
1日(月)	後期授業開始
6日(土)~7日(日)	プログラミングコンテスト本選
12日(金)~16日(火)	東北地区高専ラグビー大会
14日(日)	ロボットコンテスト東北地区大会
20日(土)	秋季学級懇談会 寮保護者会
24日(水)	防災訓練
11月	
2日(金)	高専祭準備のため休講
4日(日)	高専祭(3日前夜祭、4日本祭)
5日(月)	学生臨時休業日
7日(水)	寮防災訓練
16日(金)~17日(土)	デザインコンペティション
21日(水)~22日(木)	学年・学科行事日
25日(日)	ロボットコンテスト全国大会
29日(木)	後期中間試験開始 (12月12日(水)まで)
12月	
12日(水)	特別セミナー発表会
16日(日)	専攻科学修成果小論文試験 (学位授与機構)
25日(火)	冬季休業開始 (1月8日(火)まで)
1月	
9日(水)	授業開始
11日(金)	学習到達度試験 (3年生但し3コマ除く 他学年は臨時休業)
15日(火)	月曜授業振替
16日(水)	学生臨時休業日
18日(金)	専攻科特別研究発表会(1年)
23日(水)	専攻科特別研究発表会(2年)
30日(水)	学生総会 専攻科特別研究公開発表会(2年)
2月	
6日(水)	金曜授業振替
7日(木)~14日(木)	後期期末試験
22日(金)	卒研発表会
25日(月)	学生臨時休業日
26日(火)~27日(水)	卒研発表会
29日(金)	終業式
3月	
3日(月)	学生臨時休業開始
18日(火)	卒業証書授与式 修了証書授与式

入学試験関係

【専攻科】	
○二次募集	
・願書受付	12月3日(月)~7日(金)
・学力検査と面接	12月14日(金)
・合格発表	12月20日(木)
○社会人選抜	
・願書受付	12月3日(月)~7日(金)
・面接	12月14日(金)
・合格発表	12月20日(木)
【本科】	
○推薦による選抜	
・推薦入学願書受付	1月7日(月)~9日(水)
・面接	1月16日(水)
・合格内定通知発送	1月22日(火)
○学力検査による選抜	
・願書受付	2月5日(火)~13日(水)
・学力検査	2月24日(日)
・合格発表	2月29日(金)

編集後記

学校便りの第83号を発行しました。今回は、読者の皆様から要望の強かった「学生の活躍」をできるだけ多く、そしてタイムリーな話題も原稿締め切りに戦いを挑んで掲載しました。また、「百聞は一見にしかず」ということで、文章より写真重視で編集できたと思います。これは、編集を行った総務課職員の「高専の今を伝えたい」という熱意の現れです。次号も本校学生や教職員の活躍を大きく掲載できるように、奮闘努力したいと考えています。

広報委員長 天野 仁司



点 描



■入学式



■東北地区高専学生リーダー交流会



■校内体育大会



■ミニ研発表会



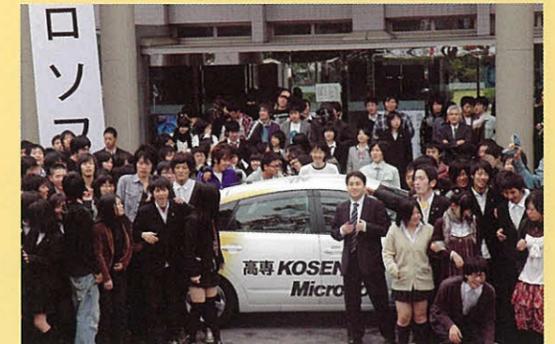
■防災訓練



■高専祭前夜祭



■高専祭



■高専キャラバン